

## 関東道路

関東道路(武藤正浩代表取締役社長)は1日、笠間市の笠間工業の丘内にある遊歩道37mで、国内初となる笠間陶磁器のくずを利用した「透水性笠間陶磁器樹脂舗装工事」を行った。これまで陶磁器のくずは、市内の最終処分場に持ち込んで処理していたが、同市の環境都市(ゼロカーボン・プロジェクト)の一環で、陶磁器のくずの100%リサイクルが可能となった。

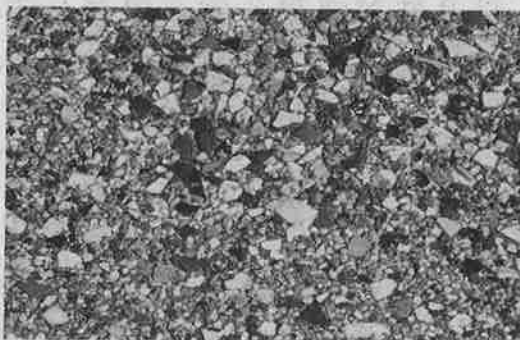
同社は、家庭から出る

# 笠間陶磁器のくずを有効活用

## 舗装材にリサイクル



丁寧に陶磁器粒を敷き均す



モザイク模様の施工面

一般可燃性ゴミを焼却、溶融、スラック化して砂の替わりに使用するアスファルト合材「エコファルト」生産の技術を有している。笠間焼協同組合

どから出る陶磁器のくずは年間4〜5tになり、武藤社長は舗装の骨材としての利用方法を同市に提案していた。

リサイクルプラントで陶磁器のくずを一次破碎し、粒度を調整。現場で陶磁器粒と猿投砂利を混ぜ、結合剤のバインダー、珪砂を投入し、下地

の透水性アスコン5cmの上に陶磁器樹脂混合物2cmを敷き均す。硬化養生には24〜48時間要するという。

完成した施工面は、カラフルな陶磁器粒がモザイクのように仕上がる。同市環境政策課の大内光広課長は、「景観的にも地域性が出て、ピーアール効果があり、陶磁器の処分量が減るメリットがある。市内の公園などにも広げていければ」と期待する。この遊歩道には、笠間陶磁器を利用していることを示すパネルを設置し、観光客などに周知する考え。